

**公益社団法人日本馬術連盟が
中期目標を達成するための計画
(2021～2025 中期計画)**

令和3年2月

公益社団法人日本馬術連盟

<序文>

公益社団法人日本馬術連盟（以下「日馬連」という。）は、日本における馬術の統括団体として、広く国民に対して馬術の普及・振興を図り、競技の公正と馬のウェルフェアを尊び、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的として設立されている。

日馬連の業務運営における 2021 年度から 2025 年度までの 5 年間については、東京 2020 大会の開催を契機として、国内の馬術界を一層発展させていくことに注力しなければならず、またその最大の機会となることから、以下の中期計画に基づき、業務を推進していくものとする。

I. 中期事業計画

1. 馬術の普及・振興

(1) 会員の登録増加

- ① 若年者層及び高齢者層を対象とした競技会の新設等競技体系の整備を行い、会員の登録増加につながる環境整備を行う。（現在の 6,300 人から目標 1 万人）
- ② 競技会役員を養成し（質・量とも）、公認競技会を開催しやすい組織体制を構築する。

(2) 公式ウェブサイトのリニューアル（スマートフォン対応も視野）

(3) 主催競技会等の動画配信レベルの向上及び動画配信ページの認知度向上

- ① 放映映像の臨場感を高めることにより人々の馬術競技への興味をより一層高めていく。（馬場馬術自由演技の音楽同時配信、総合馬術競技コースのウェアラブルカメラ放映等）
- ② 日馬連の動画配信ページを他の主要なインターネットスポーツ放映チャンネルに登録してもらうことで、馬術競技の動画配信の存在を広く周知し、一般社会における馬術競技の認知度向上に繋げる。

(4) マーケティング活動の更なる発展

- ① 東京 2020 大会以降に従来のスポンサーシッププログラムの内容を見直し、新たなマーケティング施策を構築することで、より安定的にマーケティング収入を確保する。
- ② スポンサーにも馬術競技の魅力を発信してもらい、企業間において馬術競技のスポンサーとなることのステータスを確立してもらうことで、企業がスポンサーとして参入しやすい環境を醸成する。

(5) 新生 JRA 馬事公苑の活用

2023 年秋にリニューアル工事が完了し、馬術競技場として一般利用が可能となる JRA 馬事公苑で日馬連が主催競技会を行うにあたり、東京 2020 大会馬術競技場であるレガシーとしての価値やその施設規模を十分活用することで、馬術競技ファンのすそ野拡大を目指す。

2. 組織の強化

(1) 外部理事割合の拡大

日馬連の意思決定における透明性及び多様性を担保するため、外部理事の割合を 25% 以上とする目標達成年を 2023 年までとする。

(2) 女性理事割合の拡大

日馬連の組織運営において女性の参画拡大を推進するため、女性理事の割合を 40%

以上とする目標達成年を 2023 年までとする。

- (3) IF 役員ポスト (2024 年 FEI グループⅧ会長ポスト) の獲得を目指し、馬術界における国際的な発言権の強化を図る。
 - (4) 組成団体や関係団体 ((公社) 全国乗馬倶楽部振興協会等) と積極的に連携し、協同して施策を実行することにより、それぞれの組織が競技と普及の面でより発展・一体化した形で業務運営が可能となるよう、組織体の進化を目指す。
3. 競技力レベルの強化 (主要国際大会でメダルの常連国に)
 - (1) 選手の強化

東京 2020 大会に向けて、海外強化拠点を設置し、選手強化を図るなかで構築された現状の人的ネットワークを更に強化・拡充し、東京 2020 大会以降も主要な国際大会でメダルが獲得できるよう、中期計画期間において引き続きナショナルチームメンバーを海外に派遣し、選手強化を目指す。
 - (2) 主要国際大会における目標設定

東京 2020 大会及び 2022 年世界選手権大会それぞれにおいて、3 種目とも個人・団体においてメダルを獲得することを目標として設定する。
 4. 馬のウェルフェアの推進

馬術競技においては、馬のウェルフェアが最優先されなければならない、この観点からドーピング行為は徹底して排除されなければならない問題である。

この問題の解決のため、中期計画期間において主催競技会だけではなく国体等においても馬ドーピング検査の実施を働きかけ、ドーピング違反の発生防止に努めるものとする。
 5. 事業運営の効率化

現行の日馬連の登録システムは、オンライン上で申請・登録が完結する仕様とはなっていないことから、登録業務において事務作業の負担が非常に大きく、また会員も会費や登録料を自ら銀行振り込みしなければならないことから利便性が大きく欠如している。

このため、中期計画期間においてシステムの改修を行い、オンライン上で申請・登録を完結させ、業務の効率化を図るとともに、クレジットカードで入金ができるシステムにすることで会員の利便性向上を図る。

II. 経営基盤の強化

1. ガバナンスの強化

日馬連は、スポーツ庁が令和元年 6 月 10 日付で制定した「スポーツ団体ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉」の対象団体であり、2022 年にこの適合性審査を受ける予定となっている。この審査に向けて規定遵守が達成されるよう、ガバナンス強化を基準に沿って図るものとする。
2. 事務局の強化

日馬連事務局の現在の職員構成は、プロパー正職員の約 9 割が 40 歳代以上で占められており、世代構成として適切な新陳代謝を図ることが困難な状況となっている。このため中期計画期間においてこの世代構成を是正する職員の採用を積極的に行い、事務局組織体制の強化を図るものとする。

3. 財政基盤の強化

中期事業計画において目標とした会員の登録増加により、会費収入を増やし、また、同じくマーケティングの活動の更なる発展によりマーケティング収入を増やすことで、日馬連における財政基盤の一層の強化を図るものとする。